

学校教育ビジョン 【教育目標】 【目指す児童像】 【目指す学校像】		〇学校経営方針と重点取組 ①学びを楽しむプロジェクト		～「WE LOVE 片小」わくわく楽しい学校づくり大作戦～ ②温かい心プロジェクト ③元気な体プロジェクト ④ふるさと愛プロジェクト ⑤安心・安全な学校・学級づくり	
---	--	-------------------------------	--	---	--

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	判定結果 (最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	児童一人一人の基礎・基本の力の向上を目指す。	授業で基礎・基本の定着を図るだけでなく、ぐんぐんタイム、家庭学習などでAIドリルやプリント学習などを活用し、基礎・基本の力の確認や個々の苦手や課題に合わせた個別最適なドリル学習に取り組む。	教務主任	語彙力や漢字の読み書き・基礎的な計算力の個人差が大きい。思考力・判断力・表現力をねらいとする問題でも、基礎基本の力が不十分のためにねらいを達成できないことも多い。	【成果指標】 学年相当の基礎学力が身についているか。	国語・算数の単元末テストの平均点が、 A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	〈学期ごとの評価テストの平均点〉C、Dの場合は、共通実践事項を見直し、検討する。			
	「やってみよう！」から始まる授業づくりを実施する	児童が思わず「やってみよう！」と主体的に学びに向かうことができるよう、興味・関心を引き出す導入の工夫を行う。	研究主任	委ねる学びの実践を継続的にを行い、自ら学びに向かう児童が増えている。しかし、集中して学びに取り組めず自律的に学ぶことができない児童もいる。	【成果指標】 「やってみよう！」から始まる授業づくりを実践する中で、単元の始めに児童をひきつける導入の工夫を行っているか。	算数科を中心に、「やってみよう！」から始まる授業づくりを実践する中で、単元の始めに児童をひきつける導入の工夫を1ヶ月に1単元以上設定している教員の割合が、 A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	〈教職員アンケート7月、12月〉C、Dの場合、取組の内容を再検討する。			
②生徒指導 ※いじめの未然防止	個や学級のよさを認め合う集団づくりを行い、自己肯定感を高める。	いじめの未然防止に向け、生徒指導の4つの視点を生かした授業の取り組みを継続し、温かい人間関係の構築に重点を置いた学級経営に努める。学習ルールを徹底させるとともに、グループエンカウンターや児童主体の活動を取り入れ、互いのよさを認め合い、助け合う児童の意識向上を図る。	生指主事	生徒指導の4つの視点を活かした授業や、SCを活用した心理教育プログラムの定期的実施等で、温かい人間関係づくりに努めてきたが、自己肯定感を高めることには十分つながっているとは言えない。	【成果指標】 児童の自己肯定感が高まったか。	「自分にはよいところがある」と答えた児童の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	〈児童アンケート7月、12月〉C、Dの場合、取組の内容を再検討する。			
③キャリア教育・進路指導	児童の主体的な活動を重視する。	学級会や児童会活動、学校行事を通して、目標設定や成長をふりかえる場、認め合う場を設定する。また、キャリアパスポートを活用し、自己評価していく取組を計画的に推進する。	キャリア教育担当	個に応じた目標を設定し、その達成に向けて粘り強く努力する児童が増えてきている。しかし、目標は立てることができ、意識を継続して取り組むことが難しい児童もいる。	【成果指標】 学校生活で自分自身をふり返り、努力や成長を実感できたか。	「目標を立てて努力できた」と答えた児童の割合が、 A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	〈児童アンケート7月、12月〉C、Dの場合は、取り組みを再検討する。			
④保健管理	基本的な生活習慣を確立するための指導の充実。特に歯科衛生管理に関する指導を重点的に行う。	自分の生活習慣を振り返らせることで、歯の健康管理の重要性を再認識させる。ほけんだよりでの啓発、児童委員会の活動、歯の健康に関する授業を行い、歯科衛生管理に関連した取り組みを続ける。	保健主事	本校は、未処置(未治療)のむし歯がある児童の割合が45.4%、むし歯経験のある児童の割合が63.9%という結果だった。昨年度に比べ少し改善は見られたが、まだまだ、むし歯の罹患率が高く、むし歯の治療や予防の励行が必要である。	【成果指標】 自分の生活を見直し、よりよくしようとする姿が見られたか。	「歯みがきをしていいいにしている」と答えた児童の割合が、 A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	〈児童アンケート7月、12月〉C、Dの場合は、取り組みを再検討する。			
⑤安全管理	児童の危機回避力の向上を図る。	避難訓練、学級活動における安全指導、特別の教科道徳の規則の尊重等の学習の充実を図り、児童の危機回避に対する意識と態度の育成を図る。	教頭	児童の安全やけがの防止に対する意識が弱く、けがやトラブルにつながる場合がしばしばあった。今後、個別や学級・学校全体で、児童が危険を予測し、回避力や対応力を高める必要がある。	【成果指標】 児童の危機回避能力を向上させることができたか。	児童が「安全に気を付けて行動している」と回答した割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	〈児童・教職員アンケート7月、12月〉C・Dの場合、改善策を検討する。			
⑥特別支援教育	困り感がある児童のニーズに応じて適切な指導や支援を行う体制を整える。	支援が必要な児童の実態を気付き票で把握し、全職員で共通理解する機会を設ける。また、特別支援コーディネーターや児童生徒支援担当が中心となり、特別支援教育アドバイザー、専門相談員等関係機関と連携を図り、個々の特性にあった支援を組織的に行う。	特支コ	定期的に行う児童理解の会において全教職員で困り感のある児童の共通理解をし、必要に応じてケース会議を開きチームで適切な支援方法を考えている。各学級に支援を必要とする児童が在籍するため、効果的な支援をどのように行うか具体的に考え、組織体制を整える必要がある。	【努力指標】 児童の困り感を把握し、必要に応じて組織的な支援体制を工夫したか。	「児童の実態について共通理解し、必要に応じて組織的な支援体制をとることができた」と答えた職員の割合が、 A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である。	〈教職員アンケート7月、12月〉C、Dの場合、取組の内容を再検討する。			
⑦組織運営・業務改善	ICTを活用した業務改善を図る。	外部人材や専門スタッフと連携し、Googleドライブのより効果的な運用を行い、情報共有と会議の短縮化や校務の効率化を図る。(連絡モニター、職員会議等)	教 頭	会議や終礼の時間短縮や生徒指導等の情報共有にICTを効果的に活用できた。提案の方法や議事録の作成等について、より改善を図っていく。(夏季休業中を目途に)	【成果指標】 ICTの活用により、質的・量的な業務改善ができたか。	「ICTの活用により、質的・量的な業務改善ができた」と答えた職員の割合が、 A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	〈教職員アンケート7月、12月〉C、Dの場合、運営委員会で取り組み体制を再検討する。			
⑧研修	計画的にOJTや若プロなどの研修を行う。	「学級経営」や「児童や保護者との関わり方」各教科の指導法」など若手教員のニーズに合わせた研修を推進する。 片小LOVE研、算数科を中心とした授業実践、若手早期育成プログラムやOJT・授業交流等の場を計画的に設定する。	若プロ担当	研修の担当者も参加者も、意欲的に準備・参加している。若手教員のニーズをタイタリーに吸い上げ、実践につなげられるように、日々の成果や課題について自覚化し、悩みを話しやすい職員集団づくりを意識していく必要がある。	【努力指標】 研修会・授業交流等で学んだことを生かし、実践につなげることができたか。	「研修会・授業交流等で学んだことを生かし、実践につなげることができた」と答えた職員の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	〈教職員アンケート7月、12月〉C、Dの場合、研修会・授業交流の持ち方や内容、職員集団づくりを検討する。			
⑨保護者、地域との連携	保護者や地域と連携した学習を実施する。	学期に1回以上、保護者や地域と連携し「ふるさと片山津のよさ」を実感できる学習を実施する。	教 頭	ふるさと愛プロジェクトのもと、各学年生活科や総合的な学習の時間において、「片山津」を題材にした学習を計画している。そこで、「ふるさとのよさ」を実感できる学習を通して、ふるさとへの関心や愛着を高めていく。	【成果指標】 学期に1回以上、保護者や地域と連携した学習を実施したか。	「学期に1回以上、保護者や地域と連携した学習を実施した」と回答した学級担任(特支を除く)の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	〈教職員アンケート7月、12月〉C、Dの場合、改善策を検討する。			
⑩教育環境整備	教室や特別教室等、学びの教育環境を整える。	授業の教材教具や児童の学習道具などの整理整頓に努め、学びの空間を工夫し、学びの環境を整える。	教頭	教室スペースや収納棚に限られている中で、学習道具の収納や出し入れ、教科に關係する道具の安全な整頓などを定期的に確認するとともに、学びの空間デザインをさらに考える必要がある。	【努力指標】 教室や特別教室などの学びの空間を整えることができたか。	「教室や特別教室など、児童の学びの空間を整えることができた」と答えた職員の割合が、 A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	〈教職員アンケート7月、12月〉C・Dの場合、職員作業を行う。			

学校関係者評価	
---------	--